

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第6部門第2区分  
 【発行日】平成24年5月10日(2012.5.10)

【公開番号】特開2010-243765(P2010-243765A)  
 【公開日】平成22年10月28日(2010.10.28)  
 【年通号数】公開・登録公報2010-043  
 【出願番号】特願2009-91988(P2009-91988)  
 【国際特許分類】

G 0 3 B 17/20 (2006.01)  
 G 0 3 B 13/24 (2006.01)  
 G 0 3 B 13/36 (2006.01)  
 G 0 2 B 7/28 (2006.01)  
 H 0 4 N 5/225 (2006.01)  
 G 0 2 F 1/133 (2006.01)  
 G 0 2 F 1/13357 (2006.01)

【F I】

G 0 3 B 17/20  
 G 0 3 B 13/24  
 G 0 3 B 3/00 A  
 G 0 2 B 7/11  
 H 0 4 N 5/225 B  
 G 0 2 F 1/133 5 3 5  
 G 0 2 F 1/13357

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月13日(2012.3.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

透過光の拡散状態を変化させることが可能な高分子分散液晶からなる表示手段と、前記透過光の光束の角度と異なった角度で前記表示手段に対して光を照射する発光手段と、を有する表示装置であって、

環境下における当該表示装置の温度を検出する温度検出手段を備え、

該温度検出手段の検出結果に応じて、前記表示手段の高分子分散液晶を透過状態から非透過状態へと変化させる駆動信号の該表示手段への印加に応じて発光する前記発光手段の発光開始タイミングと発光強度と発光持続時間のうちの少なくとも1つを調整することを特徴とする表示装置。

【請求項2】

光学機器の被写体像の画面内の複数の焦点検出領域において焦点検出可能な焦点検出手段を備え、

前記複数の焦点検出領域の中から少なくとも1つの焦点検出領域が自動的に選択され、該選択された焦点検出領域に対応した領域が前記表示手段にて表示される第一の焦点検出領域表示モードと、前記複数の焦点検出領域の中から少なくとも1つの焦点検出領域が手動で選択される際に、該手動で選択された焦点検出領域に対応した領域が前記表示手段にて表示される第二の焦点検出領域表示モードを有し、

前記第一の焦点検出領域表示モード時には、前記温度検出手段の検出結果に応じて、前記表示手段の高分子分散液晶を透過状態から非透過状態へと変化させる駆動信号の該表示手段への印加に応じて発光する前記発光手段の発光開始タイミングと発光強度と発光持続時間のうちの少なくとも1つを調整して前記焦点検出手段による焦点検出動作実行後の合焦状態の表示を行うとともに、前記第二の焦点検出領域表示モード時には、前記発光手段の発光を連続的に行って焦点検出領域の表示を行うことを特徴とする請求項1に記載の表示装置。

【請求項3】

前記温度検出手段の検出結果から、環境下における当該表示装置の温度が所定値以下であると検出された場合、前記表示手段の高分子分散液晶を透過状態から非透過状態へと変化させる駆動信号の該表示手段への印加に応じて発光する前記発光手段の発光開始タイミングと発光強度と発光持続時間の少なくとも1つを、温度が前記所定値より高い時よりも、遅延させる、或いは大きくする、或いは長くすることを特徴とする請求項1または2に記載の表示装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0041

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0041】

焦点検出領域手動選択モードに入るのは、撮影者がカメラ本体に備え付けられた不図示の設定ボタンを押圧することで実行される。また、設定完了或いは該モードを抜けるには、再度該ボタンを押圧すればよい。カメラが焦点検出領域手動選択モードに入ると、図2のファインダ視野図にあるように、PN液晶パネル112上に配されている被写界の焦点検出可能な15個の領域を示す焦点検出領域のキャラクタ表示(F11～F35)が表示される。これが第二の焦点検出領域表示モードの表示形態である。このとき表示される焦点検出領域表示部は、現在設定されている特定の焦点検出領域が最初に表示される。例えば、前回操作で中央領域F23を選択していればその領域が、また焦点検出領域自動選択モードに設定されていれば、15個全ての領域が一度にキャラクタ表示部として表示される。ここで低輝度時に第二の焦点検出領域表示モードに入った場合には、PN液晶パネル112を照明するLED123が発光するが、再度ボタンを押圧するか、リリーススイッチ114を操作しない限り、LED123の発光は継続するようになっている。つまり、焦点検出領域を指定しようとして連続的にスイッチダイヤルを操作すると、焦点検出領域のキャラクタ表示部は発光状態のまま順次その場所を移動して表示される。更に低輝度かつ低温時には、前記の如くPN液晶はスイッチダイヤル操作に応じて、駆動電圧のOFF、ONに従って、立ち下り(透過 非透過)、立ち上がり(非透過 透過)を繰り返し、前述の如く立ち下り時に反応の遅れが目立ってくる。しかしながら、常時LED123は照明状態にあるため、焦点検出領域のキャラクタ表示部が暗くなることはない。